



----- HEADLINE -----

- ◆非鉄金属: パンパシフィック・カップーが 2018 年度下期の金属製品の生産予定を公表(10月5日)
- ◆飼料原料: 住友化学が飼料添加物メチオニンの新プラント完成を公表(10月4日)
- ◆樹脂: 日本触媒がベルギー子会社で高吸水性樹脂及びアクリル酸設備の建設完工式を開催(10月4日)
- ◆フィルム: 日本ゼオンが光学フィルムの原反生産能力増強を決定(10月2日)
- ◆溶剤: AGC が環境対応型新フッ素系溶剤 AMOLEA AS-300 の本格販売を開始(10月2日)
- ◆プラント建設: 日揮がカナダの大型 LNG プラント建設プロジェクトの正式契約発効を公表(10月2日)
- ◆耐火材: デンカがファイアレンおよびβ窒化珪素からの事業撤退(10月1日)
- ◆非鉄金属: 三菱マテリアルが 2018 年度下期の地金生産計画を公表(10月1日)
- ◆非鉄金属: 三井金属が 2018 年度下期の地金生産計画を公表(10月1日)
- ◆フィルム: 凸版印刷が OPP フィルムにバリア性を付与した透明蒸着バリアフィルム「GL-LP」を開発(10月1日)
- ◆新エネルギー: 東洋エンジニアリングが富山県でバイオマス専焼発電所を受注(10月1日)
- ◆価格改定
 - ・JXTG エネルギーがベンゼンの契約価格を改定
 - ・宇部興産がナイロン 6 及びナイロン 66 樹脂製品を 10 月 15 日出荷分より値上げ

- ・日本ポリエチレンがポリエチレンを 10 月 15 日納入分より値上げ
- ・日本ポリプロがポリプロピレンを 10 月 15 日納入分より値上げ
- ・JSR が合成ゴム・エマルジョン製品を 10 月 21 日納入分より値上げ
- ・デンカがクロロプレンゴムを 11 月 1 日出荷分より値上げ



◆海外市場調査の Web サイト『グローバルマーティンラボ』もご覧ください。

<http://www.global-marketing-labo.jp>

近年のマーケティングの対象は国内市場中心からグローバル市場へと広がっております。

弊社では、グローバル市場においても足で稼ぐ生きた情報を収集すべく、充実した社内体制と外部ネットワークを構築し、多数の海外調査を実施しております。

『グローバルマーケティングラボ』では、工業市場研究所の海外調査のメニューの紹介や調査実績、各国情勢コラムを掲載しております。調査実績、海外情勢コラムは随時、更新を行っておりますので、是非、ご覧ください。

海外市場調査にご興味のある方は、TEL:03-6459-0165 又は
<http://www.global-marketing-labo.jp/contact/> までご連絡下さい。

WEEKLY NEWS

◆非鉄金属：パンパシフィック・カッパーが 2018 年度下期の金属製品の生産予定を発表（10 月 5 日）

パンパシフィック・カッパーは、2018 年度下期の金属製品の生産予定を発表した。

銅は 296,800t/期（前年同期：267,400t/期）、硫酸は 861,900t/期（前年同期：643,700t/期）、金は 17,800 kg/期（前年同期：15,700 kg/期）、銀は 156,800kg/期（前年同期：150,600 kg/期）の生産を予定している。なお、銅は佐賀関製錬所及び日立精銅工場における銅生産量(全量)並びに日比共同製錬における銅生産量(PPC 分)としている。

◆飼料原料：住友化学が飼料添加物メチオニンの新プラント完成を発表（10 月 4 日）

住友化学は、愛媛工場において、同社として国内最大級の投資額となる飼料添加物メチオニン製造設備 1 系列の建設工事を完了したことを発表した。新製

造設備は、試運転を経て、まもなく商業生産を開始する予定である。

メチオニン^①は、動物の体内で合成することができない必須アミノ酸の一種で、トウモロコシ等を主原料とする鶏の飼料はメチオニンが不足していることが多いため、鶏肉や鶏卵の生産性向上を目的に、飼料添加物として広く使用されている。

メチオニン市場は、足元年率 6%程度で成長しており、引き続き同程度での伸びが期待されている。今回新設した 1 系列の生産規模は年産約 10 万トンで、増強後の生産能力は既存設備と合わせて年産約 25 万トンになるとしている。

◆樹脂：日本触媒がベルギー子会社で高吸水性樹脂及びアクリル酸設備の建設完工式を開催（10 月 4 日）

日本触媒は、ベルギー子会社 NIPPON SHOKUBAI EUROPE N.V.（以下 NSE）が、高吸水性樹脂（SAP）10 万トン/年およびアクリル酸（AA）10 万トン/年設備建設の完工式を行ったことを発表した。

今回の設備投資等は約 350 百万ユーロであり、これにより NSE の SAP 生産能力は、既存能力 6 万トン/年と合わせて計 16 万トン/年となる。

日本触媒グループの生産能力（2018 年末）は、NSE が SAP と AA の商業運転を開始したことにより、AA が 88 万トン/年、SAP が 71 万トン/年としている。

◆フィルム：日本ゼオンが光学フィルムの原反生産能力増強を決定（10 月 2 日）

日本ゼオンは、富山県高岡市の光学フィルム工場において、原反製造ラインの生産能力を増強すると発表した。

日本ゼオンの溶融押し出しフィルム（ゼオノアフィルム）は、シクロオレフィンポリマーを、溶融押出法により生産した各種ディスプレイ向けの光学フィルムであり、高精細が求められるモバイル機器や大型 TV を中心とした用途で需要が拡大している。今回、その需要拡大の流れを受け、モバイル機器向けの光学フィルムの原反能力を増強するに至った。

増強場所は同社製造子会社であるオプテスの北陸工場高岡製造所を予定しており、2019 年 10 月に稼働開始の予定としている。

◆溶剤：AGC が環境対応型新フッ素系溶剤 AMOLEA AS-300 の本格販売を開始（10 月 2 日）

AGC は、環境対応型新フッ素系溶剤 AMOLEA（アモレア）AS-300 のグローバル販売を 10 月 17 日より開始することを発表した。

同製品はオゾン破壊係数を「ほぼ 0」に、地球温暖化係数を「1 未満」に抑えた環境対応型フッ素系溶剤である。地球環境への負荷が小さいだけでなく、優

れた安全性・洗浄力を有している。

2017年10月に同製品を発表以来、性能評価を繰り返してきたが、各種用途における実用機能の検証が完了し、量産体制が整ったことから、グローバルな本格販売を行うこととした。

同製品は、2020年7月に欧州で特定用途以外使用が禁止される臭素系溶剤を使用しているユーザーにも、既存の洗浄機を転用して簡単に使用できるとしている。

◆プラント建設：日揮がカナダの大型 LNG プラント建設プロジェクトの正式契約発効を発表（10月2日）

日揮は、LNG カナダ社がカナダのブリティッシュコロンビア州で計画する大型 LNG プラント建設プロジェクトについて、最終投資決定を行ったことに伴い、同プロジェクトの EPC 契約が正式に契約発効されたことを発表した。

LNG カナダ社は、シェル社（40%）、マレーシア国営石油会社（25%）、中国石油（15%）、三菱商事（15%）および韓国ガス公社（5%）で構成されるジョイントベンチャーである。

同プロジェクトの受注総額は約 140 億米ドル（内、同社受注額は約 56 億米ドル）であり、天然ガスの総生産量約 1,400 万トン、納期は 2020 年代半ばとしている。

◆耐火材：デンカがファイアレンおよびβ窒化珪素からの事業撤退（10月1日）

デンカは、2020年3月末でファイアレンおよびβ窒化珪素の生産を終了し、両事業から撤退することを決定したと発表した。

ファイアレンは 1967 年の上市以降、主に高炉出銑口の穴埋め材（通称：マッド材）の原料として、β窒化珪素は 1983 年の上市以降、主に耐火物分野向けに生産をしてきた。

しかし、市場環境の変化や設備の老朽化が進む中、重点分野の一つである「環境・エネルギー」のさらなる成長を目指す事業ポートフォリオ変革の一環として今回の決定に至った。

今後、ユーザーと相談のうえ在庫の積み上げや同業他社への協力要請などを検討し、事業撤退を進めていくとしている。

◆非鉄金属：三菱マテリアルが 2018 年度下期の地金生産計画を発表（10月1日）

三菱マテリアルは 2018 年度下期（2018/10—2019/3）の地金生産計画を発表した。

銅の生産量については、直島製錬所では2018年度下期に炉修を予定しており前年同期から約13%減、小名浜精錬所は約1%増となり、全体では前年同期から約8%減の27,808トン/月となる見込みである。鉛の生産量は前年同期から約2%減の2,288トン/月となる。また、原料構成の差により、金の生産量は前年同期の実績比で約6%減4,067kg/月となる。銀については、スクラップ原料の銀品位低下により、約8%減の28,333kg/月を見込むとしている。

◆非鉄金属：三井金属が2018年度下期の地金生産計画を発表（10月1日）

三井金属は、2018年度下期における地金生産計画を発表した。

亜鉛は114.6千t(前年同期：110.6千t)、鉛は33.8千t(前年同期33.8千t)、金は2.7t(前年同期2.5t)、銀は104.8t(前年同期120.1t)の生産計画としている。

◆フィルム：凸版印刷がOPPフィルムにバリア性を付与した透明蒸着バリアフィルム「GL-LP」を開発（10月1日）

凸版印刷は、優れた酸素バリア性と水蒸気バリア性を持つと同時に高湿度下でもバリア性能を保持できるOPP(二軸延伸ポリプロピレン)フィルム「GL-LP」を日本で初めて開発したことを発表した。

現状のOPP基材のバリアフィルムは、温度や湿度の影響を受けてバリア性能が低下するという課題があり、1年を通じて安定したバリア性能を発揮し内容物の鮮度を保持できるバリアフィルムが求められている。

同社はこれらの課題に対応するため、蒸着技術とコーティング技術を応用し、温度や湿度によるバリア性能の低下を抑えた軽包装向けバリアフィルムの開発に成功した。本製品は視認性が高く、商品訴求力の向上が可能であり、パッケージのリサイクル推進「モノマテリアル化」にも対応している。

凸版印刷は菓子・食品メーカーに向け、2018年12月より販売を開始し、2020年に関連受注を含め約20億円の売上を目指すとしている。

◆新エネルギー：東洋エンジニアリングが富山県でバイオマス専焼発電所を受注（10月1日）

東洋エンジニアリングは、エクイスバイオエネルギー株式会社が富山県高岡市で開発する50MW級バイオマス発電所建設プロジェクトを受注したと発表した。

完成は2021年を予定しており、茨城県の50MW級バイオマス専焼発電所の受注に続き、本年の第2号案件となる。

本プロジェクトは、主に木質ペレットを燃料とし、蒸気タービンにて仕事をした

蒸気をボイラーにて再加熱し、再度蒸気タービンへ通気させることにより高い発電効率を実現することができる再熱方式を採用した高効率なバイオマス専焼発電設備の発電所を建設するものである。

東洋エンジニアリングは、発電プラント中心のインフラ分野を一つの中核事業として、国内で再生可能エネルギー発電に取り組んでおり、今後もバイオマス発電への取り組みを拡大するとしている。

◆価格改定

- ・JXTG エネルギーがベンゼンの契約価格を改定
10月契約価格は、860 \$/t(前月比▲40 \$/t)、国内価格換算想定値は103.2 円/kg
- ・宇部興産がナイロン 6 及びナイロン 66 樹脂製品を 10 月 15 日出荷分より値上げ
値上げ幅は、ナイロン 6 が 50 円/kg、ナイロン 66 が 70 円/kg
- ・日本ポリエチレンがポリエチレンを 10 月 15 日納入分より値上げ
値上げ幅は、10 円/kg以上
- ・日本ポリプロがポリプロピレンを 10 月 15 日納入分より値上げ
値上げ幅は、12 円/kg以上
- ・JSR が合成ゴム・エマルジョン製品を 10 月 21 日納入分より値上げ
値上げ幅は、11~20 円/kg以上
- ・デンカがクロロプレンゴムを 11 月 1 日出荷分より値上げ
値上げ幅は、44 円/kg以上



株式会社 工業市場研究所

TEL:03-6459-0165 FAX:03-5408-1584

〒105-0003 東京都港区西新橋 3-6-10 マストライフ西新橋ビル

<http://www.kohken-net.co.jp>

◆メールの設定により、読み難くなる場合がございます。ご容赦ください。

◆配信停止・ご意見・お問い合わせはこちらへ h-ikeda@kohken-net.co.jp

